

不定名詞句が主語となる中国語の事象叙述文について

An Analysis of the Chinese Event Predication Sentence

with an Indefinite Subject

薛 晨

Xue Chen

Abstract: There are many Chinese sentences with indefinite NP. After the analysis, it was discovered, and a conclusion was made that even the subjects in Chinese sentences with indefinite NP are indefinite nouns; the modifiers should be added to the subjects or the predicates and should be descriptive. In addition, from the perspective of predication types, Chinese sentences with indefinite NP are not property predication sentences, but event predication ones and have boundedness. At last, it makes a comparison between Chinese sentences with indefinite NP and pivotal sentences with "有". From the textual perspective, when Chinese sentences with indefinite NP stand for background information and don't emphasize the existence of something, the interchangeability by pivotal sentences is low.

キーワード: 不定 NP 主語文 叙述の類型 属性叙述 事象叙述 有界

Key word: Chinese sentences with indefinite NP predication types property predication event predication telic

1. はじめに

中国語では主語は定(definite)の成分として現れる傾向があると主張してきた(赵元任1968;朱德熙1982等)。つまり、例(1)と例(2)で示すように、不定名詞句(以下、名詞句はNPと記す)は通常、文の主語とならないという見方である。

(1)?一个人来了。

(2)?一个人买了一台钢琴。

しかし、范继淹(1985)は、新聞報道においては不定名詞句が主語として用いられる文が少なからず存在すると指摘している。

(3)一位中年妇女匆匆走来。她也是专程来给14号投票的。

[ある中年の女性が急いで歩いてきた。彼女も14番に投票するために来たのだ。]

(4)一位来自哈尔滨的顾客在本市买了一台钢琴，由于没有包装，铁路不托运。

[あるハルピンから来たお客様が本市でピアノを一台買ったが、梱包されていなかったため、鉄道による荷物託送サービスが利用できなかつた。]

(例(3)(4)は范继淹1985:322より引用)

上記の例(3)と例(4)はいずれも不定NPが主語となっている文である。また、王灿龙(2003)は主語となる不定NPは常に複雑な修飾節を伴つて現れると述べており、“可及度”と“个体化程度”という視点から分析を行つている。“可及度”とは一つの指示表現が人間の記憶に存在する個体を活性化する程度を表すものであり、一方、“个体化程度”については、一つの実体(ある名詞句)に対する修飾成分が多ければ多いほど、その実体に関するその名詞句の“个体化程度”が高いと述べている(王灿龙2003:225-227)。したがつて、通常、定成分は不定成分より“可及度”が高いとされる。例えば、

(5)a.一个学生。

b.一个染着头发打扮入时的学生。

[ある髪を染めたファッショナブルな学生]

(6)a.一个人。

b.一个来自湖南师大对语言学颇有研究的人。

[ある湖南師範大学から來た言語学に詳しい人]

(例(5)(6)は王灿龙2003:225-226より引用)

王灿龙(2003)は、例(5b)および例(6b)のような複雑な連体修飾節を伴う不定NPは、“可及度”および“个体化程度”が高いため、このような不定NPが主語となる文の許容度は高いと述べている。

また、不定NP主語文の述語は全て動詞述語であり、形容詞が述語となる例が見当たらないことは夙にと指摘されており(范继淹(1985)、唐翠菊(2005))、陆砾・潘海华(2009)も不定NP主語文の述語は“阶段性谓语(動態的な事態)¹”(stage-level predicate)を表すものであると指摘している。しかし、なぜ不定NP主語文の述語は動詞述語でなければならないのかという点については、特に言及されていない。そこで、本稿では不定NP主語文の構文的特徴を考察することにより、不定NPが主語となる文の成立条件を明らかにした上で、なぜ不定NP主語文は動詞述語を求めるのかについて分析を試みる。また、“有”を伴う兼語文との比較を通して、不定NP主語文の語用的機能を検討する。

2. 不定NP主語文と叙述の類型

2.1 定・不定について

「定・不定」の概念については様々な定義があるが、本稿では陈平(1987)の定義に従う。陈平(1987)は“发话人使用某个名词性成分时，如果预料受话人能够将所指对象与语境中某个特定的事物等同起来，能够把它与同一语境中可能存在的其他同类实体区分开来，我们称该名词性成分是定指成分。反之则为不定指。”[話し手は

ある名詞成分を使用する時、聞き手がその名詞成分の指す事物を文脈中に存在するある特定の事物として認識でき、文脈中に存在する他の同種類の事物から区別し得ることを予想する場合は、その名詞成分は定である。そうでなければ、不定のものになる。]"と述べ、中国語の名詞成分を形式に基づき、以下の7種類に分けている。

- (8)A 人称代词(他/她);
- B 专有名词(万里长城);
- C “这/那” +(量词)+名词(这个问题);
- D 普通光杆名词(花瓶);
- E 数词(+量词)+名词(两个苹果);
- F 一+量词+名词(两位客人);
- G 量词+名词(只猫;e.g.教室里进来了只猫。)

(陈平1987:109-121より引用)

陈平(1987)は上のABCのタイプは定の成分として強く読み取れるものであるのに対し、DEは定か不定か判断しにくいものであり、FGは不定の成分として強く読み取れるものだと述べている。本稿が考察対象とする不定NP主語文において用いられる不定NPは、Fの「一+量詞+名詞」という形を取るものであり、本稿ではこの組み合わせを不定NPの例として取り上げる²。

2.2 不定NPが叙述の類型に対する選択

益岡(2004)は叙述の類型の観点から、文の表現類型を「属性叙述」と「事象叙述」の二つのタイプに分類している。属性叙述とは、ある対象Xがある属性(特性・性質)Yを有することを述べるものであり、事象叙述とはある空間に実現・存在する事象を表現するものであると定義している(益岡2004:4)。また、属性叙述の典型的な表現が形容詞述語文であるのに対し、事象叙述はテンスが関与することから、動詞述語文がその典型的な表現であると述べている。

このような叙述の類型の観点から、先行研究で挙げられた中国語の不定NP主語文をみてみると不定NPが主語となる文は全て事象叙述文であり、不定NPは属性叙述文では用いられないことが観察される。

- (9)*一个城市物价高。 (作例)
- (10)*一个小伙子性格开朗。 (作例)

上記の例(9)と例(10)は属性叙述文であり、不定NPが主語に用いられている。聞き手はこの名詞句が指示する対象が何であるかを具体的に捉えられないため、文の容認度は低い。言い換えれば、属性叙述文はある対象が有する属性を述べるため、対象の存在を明示的に示すことが必要とされる。つまり、不定NPが主語となる

場合、述語は属性を表すもの(形容詞述語)が排除され、事象を表すものに限定される。以上の説明により、叙述の類型の相違は不定NPが主語となり得るか否かと深く関わっていると予測される。なぜ不定NP主語文は属性叙述文を排除し、事象叙述文でなければならないという点については、第5節で詳しく検討する。

3. 不定NPが主語となる事象叙述文の構文的な特徴

3.1 事象のタイプ

益岡(2004)は、以下の例(11)に示すように、事象叙述には一つの動態的な出来事を表す文がある一方、静態的な文もあると述べている。また、事象叙述文はその動作がすでに完了した動態的なものが典型的なものだと指摘している。

- | | | |
|---------------------|-----------|-------------|
| (11)a. 父がプレゼントをくれた。 | (動態的事象叙述) | |
| b. テーブルの上に花が飾ってある。 | (静態的事象叙述) | (益岡2004:56) |

ここでいう動態的事象叙述と静態的事象叙述の違いをどう区別するのか、何のためにこのように分けられるのかということを説明する必要がある。仁田(2016)は文を表す事態³には「動き」と「状態」の2種類に分けることができると述べ、「動き」と「状態」の概念を以下のように規定している。

「動き」とは具体的な一定の時間の中に出現・存在し、それ自体が発生・展開・終了していくという時間的な内的展開過程を有するものである。「状態」は限定を受けた一定の時間帯の中にしか存在しないものの、事態発生・終焉の端緒を取り出せない、つまり展開過程を持たない同質的なモノ(人や物を含む)の一時的なありようといった事態である(仁田2016:166-167)。

上記の定義から「動き」と「状態」はいずれも時間の限定性を持っており、具体的なモノの存在や現れを表すものである。しかし、「状態」は「動き」と異なり、意味的には事態発生・終焉の端緒を取り出せない、つまり、事態の「変化性」を捉えられないことがその特徴である。典型的な状態表現は「机に本がある。」、「この部屋に大勢の人がいる。」のような意味的に時間的な展開過程を持たないものである。益岡(2004)で挙げられた例(11b)の「テーブルの上に花が飾ってある。」というような静態的事象叙述文はモノのありようが存続していることを表すものの、意味的に「誰かがテーブルの上に花を飾った」という動作の端緒が見られる。そのため、例(11b)は仁田(2016)でいう「状態」として捉えられず、ただ事態のある局面を表すことになる。言い換れば、例(11b)の「テーブルの上に花が飾ってある。」は、動作が終わった段階(「花を飾った」という人の動作結果の残存)を表す事態になる。一方、例(11a)では動作の終わりが明らかに表されることから、事態を一つのまとまりのものとして扱うことができる。よって、本稿では、〈事態を一つのまとまりとして捉えるもの〉を「動態的事象叙述」、〈事態の展開に現れるある局面・段階を表すもの〉を「静態的事象叙述」と解釈できると考える。

王灿龙(2003)は不定NP主語文に用いられる動詞の特徴を分析し、“越是动作性强的动词，越难以充当无定主语句的谓语。〔動詞の動作性が強ければ強いほど、不定NP主語文の述語になりにくくなる。〕”(王灿龙2003:232)と指摘しており、以下の例(12)を用いて説明している。

- (12)a.*一个人打他了。 / 一个人在等他。
- b.*一个小偷掏包了。 / 一个小偷吊在树上。
- c.?一个流浪汉哭了。 / 一个流浪汉躺在草地上。

(例(a)(b)(c)は王灿龙2003:231より引用)

例(12)から分かるように、王灿龙(2003)は語彙レベルでは他動性が高い動作動詞(“打”)より、状態動詞(“等”)を用いる方が文の容認度が高いと主張している。叙述の類型の観点から見れば、“一个人打他了”は動態的事象叙述であるのに対し、“一个人在等他”は静態的事象叙述であることになる。本稿の考察では静態的事象叙述となる不定NP主語文は以下のように観察される。

- (13)一个肤色黝黑的老人，弯腰弓背，正全神贯注地**捏着**手中的小人。

(《福建日报》2008/BCC)

[肌が黒ずんだ老人が腰を曲げて、全神経を集中させて泥人形を作っている。]

- (14)一位中等身材，剪着短发，衣着极平常的女同志正在灯下**批阅**文件。

(《中国监察》1994年第01期/BCC)

[中肉中背で、短髪の、ごく普通の服を着た女性が灯りの下で書類に目を通している。]

- (15)一个妇人安详地**走着**，两手各**抱着**一个幼小的纯洁的孩子。

(沃尔特·惠特曼《草叶集》/BCC)

[一人の婦人が穏やかに歩いていて、両手に一人ずつ幼い無垢な子供を抱きかかえている。]

上記の例(13)～例(15)に用いられる“捏、批閱、走、抱”はいずれも動詞自体が持続的な展開過程を有するものであり、持続相を表す“着”を伴うことにより、動き開始後の持続状態を表している。このような文は事態が有している時間的展開過程におけるある局面として存在しているものである。先に述べた通り、王灿龙(2003)は状態動詞より動作性を有する動詞は不定NP主語文の述語になりにくくなると指摘しているが、本稿の考察により、不定NPが主語として用いられる動態的事象叙述文も少なからず観察される。

- (16)一个仆人诧异地**奔**下台阶，**打开**车门。 (芭芭拉·卡德兰《俏佳人》/BCC)

[一人の召使いが訝しげに階段から急いで降り、車のドアを開けた。]

- (17)一个男人拖着拖鞋，散着裤口，用他奇怪的眼睛向金枝**扫**了一下。 (萧红《生死场》/BCC)

[ズボンの裾がボロボロな一人の男がサンダルを引きずって歩いていて、変な目で金枝をちらっと見た。]

(18)一个个子小小，其貌不扬的男生满面笑容地站起来。 (亦舒《绮色佳》/BCC)

[背が低く風采が上がらない男の子が満面笑みをたたえながら立ち上がった。]

上記の例(16)と例(17)はいずれも動作性を有する動詞からなる動態的事象叙述の例である。例(16)の“奔”は「急いで走るさま」、例(17)の“扫”は「ちらっと見るさま」を表し、いずれも動きを含む動詞となる。つまり、状態動詞に限らず、動作性を有する動詞も不定NP主語文の述語になることができる。また、例(18)に用いられる“站”は立っている状態を表す動詞であるものの、“起来”と組みわせて文全体で動態的な事象を表すことになる。言い換えれば、不定NP主語文は動詞の種類より、文の叙述の類型に関わる問題である。また、本稿の考察では王灿龙(2003)で挙げた“一个人打他了”的例より、不定NP主語文は眼前の事態を描写する表現となっていると考える。以下では「眼前描写」の特徴が統語構造にどのように反映されているのかを詳しく説明する。

3. 2眼前描写性

前節では叙述の類型の観点から、不定NP主語文は事象叙述に限定され、静態的事象叙述と動態的事象叙述の両方を許容することを説明した。実際の用例を見ると、不定NP主語文では連体修飾節や連用修飾節が用いられ、文に強い描写性を帯びさせることにより、文の表す事態を眼前に出現したもの(現象描写文⁴)として表現する例が多く観察される。例えば、

(19)一个瘦得像竹竿似的六旬老人冷冷道：“不知死活的小鬼，老夫一定会让你后悔自己的出口不逊！”

(李凉《江湖风神帮》/BCC)

[竹竿のように痩せた六十代の老人は、「生死を知らないガキめ、俺はきっとお前に自分が生意気なことを言ったことを後悔させてやる」と冷ややかに言った。]

(20)一个个子小小，其貌不扬的男生满面笑容地站起来。 (例(18)再掲)

[背が低く風采が上がらない男の子が満面笑みをたたえながら立ち上がった。]

(21)一个肤色黝黑的老人，弯腰弓背，正全神贯注地捏着手中的小人。 (例(13)再掲)

[肌が黒ずんだ老人が腰を曲げて、全神経を集中させて泥人形を作っている。]

上記の例(19)～(21)では述補構造(例(19)の“瘦得像竹竿似的”)、主述構造(例(20)の“个子小小”)や形容詞(例(20)の“其貌不扬”)、主述構造(例(21)の“肤色黝黑”)といった描写性のある成分がそれぞれ主語に対する連体修飾節として用いられることにより、主語が表す人物のイメージが具体的に示されている。また、上記の例では主語位置に立つ不定NPに対して連体修飾成分が用いられる一方で、後続する内容に動作に伴う様態(例(19)の“冷冷”、例(20)の“满面笑容”、例(21)の“弯腰弓背”)や心理状態(例(21)の“全神贯注”)も表現されることにより、文の描写性はさらに高まる。これらの描写的な成分を用いることにより、文の表す事態が

眼前で起こったものとして描き取られたのであると言える。以下の例(22)と例(23)も同様に、述語に対して描写的な連用修飾成分が付加されている。

(22) 一个仆人诧异地奔下台阶, 打开车门。 (例(16)再掲)

[一人の召使いが訝しげに階段から急いで降り、車のドアを開けた。]

(23) 一个妇人安详地走着, 两手各抱着一个幼小的纯洁的孩子。 (例(15)再掲)

[一人の婦人が穏やかに歩いていて、両手に一人ずつ幼い無垢な子供を抱きかかえている。]

上記の例(22)と例(23)はいずれも“安详地”、“诧异地”といった連用修飾成分を用いて、人物の動作がどのように行われるのかを具体的に描写している。また、例(23)では一人の婦人が穏やかに歩いているという動作に続き、両手に一人ずつ幼い無垢な子供を抱きかかえているという状態も描かれている。このように一つの行為・動作に伴う人間の姿や様態を細かく表現することにより、例(22)と例(23)の文全体が一種の眼前描写を表す表現となっている。

一方、以下の例(24)のような修飾成分を伴わない例も観察される。

(24) 一个女孩(a)坐在轮椅上, (b)靠着窗子, 眼光投向亮丽的蓝天。 (凌玉《红娘的契约鸳盟》/BCC)

[一人の女の子が車椅子に座り、窓に寄りかかって、明るい青空に目を向けている。]

(25) 一个男人(a)拖着拖鞋, (b)散着裤口, 用他奇怪的眼睛向金枝扫了一下。 (例(17)再掲)

[ズボンの裾がボロボロな一人の男がサンダルを引きずって歩いていて、変な目で金枝をちらっと見た。]

例(24)と例(25)では修飾成分は用いられていないものの、後続する述語においてその不定NPに関する具体的な描写内容が畳み掛けるように表されている。例えば、例(24)では女の子の体の状態や目つきについての描写がされており、例(25)も同様に、男の人の服装が細かく描写されることにより、その男性のイメージが生き生きと描かれている。これらの描写的成分の付加によって、人物の特徴(外見・体格など)や動作に伴う様態が細かく描かれ、これにより眼前で起こった事態や状況のありさまが明確になるため、文の容認度が高まるのである。また、例(24)と例(25)ではいずれも状態的な述語(例(24)と例(25)における(a)と(b)部)が続いて述べられ、この状態的な述語と後の述語が表す内容(人の動作や状態)が同じ場・同じ時間帯に生起することから、これらの文の全体は「眼前描写」を表すものであり、節と節の間の関わりが強く、一つの場面を構成すると言える。

4. 文の情報量

ここまで分析に従えば、不定NPが主語となる場合、文が表す事態がどのような状況で起こったのか、または人の動作や動作に伴う様態を具体的に表現するため、描写的要素が伴わなければならないということになる。ここで問題となるのはなぜ不定NP主語文には描写成分が必要であるのか、なぜ不定NP主語文は事態を

具体的に表現しなければならないのか、この特徴をどう解釈するのかということである。Grice(1975)は、人間は協調的な会話をしている際、ある種の原則に従っていると指摘し、その原則を「協調の原理」と定義している。その中に会話をを行うにあたっては、必要な情報を十分に提供するという「量の原理」が述べられている。実際の会話に限らず、小説や新聞記事などのような書き手が想定する読み手と書き手自身との対話で成り立つ場合においてもその原則は成立するのである。言い換えれば、不定NP主語文に用いられる描写的成分は重要な情報として働き、文に十分な情報を提供することに貢献していると考えられる。

(26)a.*一个人来了。

b.?一个警察来了。

c.一个高个子警察匆匆忙忙地走来了。

(作例)

[背の高い警官があたふたと歩いて來た。]

上記の例(26)から分かるように、例(26a)の容認度は低いものの、例(26b)、例(26c)の順に文の容認度が上がる。例(26a)は「ある人が來た」ことを表すが、「具体的に誰が來たのか」、「どこに來たのか」などの内容が示されていないため、文の情報量が足りないと言える。一方、例(26b)では、「人」の下位カテゴリーを表す“警察”は職業を表すことにより、文の容認度が若干高くなる。また、例(26c)のように、体格を表す連体修飾成分や「慌てて歩いてきた」といった連用修飾成分を加えれば、文の容認度はさらに上がる。例(26c)の場合、読み手は不定NPが指す対象を確定できないものの、「背が高い警察が慌てて歩いて來た」という事象に含まれる情報が十分であるため、文が有効な情報として伝達されるのである。つまり、不定NPは通常主語にはなり得ないが、文に修飾成分を加えれば加えるほど、不定NPを主語として用いても文が成立する。本稿で挙げた例で説明すれば、以下のようになる。

(27)a.?一个男生站起来。

b.一个个子小小, 其貌不扬的男生满面笑容地站起来。

(例(18)再掲)

(28)a.?一个男人用眼睛扫了一下。

b.一个男人拖着拖鞋, 散着裤口, 用他奇怪的眼睛向金枝扫了一下。

(例(17)再掲)

上記の例から分かるように、例(27a)と例(28a)は文の情報量が少ないため、容認度が低い。一方、例(27b)と例(28b)はいずれも複数の修飾成分を伴う文である。例えば、例(27b)に用いられる「背が低く風采が上がらない」という人の体つきや外見を表す内容や「満面に笑みをたたえる」といった表情に対する描写内容は全て文の情報として読み手に示されているのである。同様に、例(28b)では男の人の服装が描写されると同時に、「変な目でちらっと見る」という動作の様態も表されている。これらの描写内容は共に文に情報を加え、読み手にその場面の状況を明確に示すという役割を果たしている。

5. 不定NP主語文の叙述タイプの制約及びその解釈

沈家煊(2005)は“事件句和非事件句的对立是人类语言的普遍现象。所谓事件句就是叙述一个独立的、完整事件的句子。非事件句则与之相反。「「事象文」と「非事象文」の対立は人類の言語の普遍現象である。いわゆる「事象文」はとはある独立した、完了した事象を叙述した文であり、「非事象文」はそれと相反するものである。】”と述べている。つまり、“事件句”は“吃了一碗饭”や“吃了饭了”などのような事象の終結点が示される文であり、“非事件句⁵”は事象の終結点を持たない文であると定義している。また、“事件句”と“非事件句”的間の対立は「有界」と「非有界」の概念に反映されていると指摘している。本稿で扱う属性叙述文は“非事件句”に属することになる。属性叙述文の主語となる名詞句はモノや人の存在が前提とされると同時に、聞き手はそのモノや人を他の同種類の事物から区別し得るもの、即ち強い指示性を持つもの(定名詞句)でなければならない。例えば、

- (29)a.这个城市物价高。 (作例)
 [この都市は物価が高い。]
 b.这个小伙子性格开朗。 (作例)
 [この男の子は性格が明るい。]

上記の例は性質・性格を捉えており、モノが有する「属性」を表している。このような属性として存在するものは時間軸上に位置付けられない、即ち時間的限定性を持たないことから、テンスから解放される。このような属性の在り様は通常時間に限定されない長期性を持つものである。よって、属性叙述文自体は終結点を持たないため、「非有界」に属することになる。

一方、事象叙述文は必ずしも定名詞句を前提とするとは限らない。事象叙述は動作・状態を叙述するものであるため、時間の限定を受けるという点から、文自体は「有界」の性質を持っていると考えられる。この「有界性」は動詞の直後に置かれた“了”や動補構造として統語構造に反映される。例えば、

- (30)一位来自哈尔滨的顾客在本市买了一台钢琴，由于没有包装，铁路不予托运。 (例(4)再掲)
 (31)一个男人拖着拖鞋，散着裤口，用他奇怪的眼睛向金枝扫了一下。 (例(17)再掲)
 (32)一个女孩子上机了，她走到我的身边坐下，看了我一眼，有点高兴。 (亦舒《莫失莫忘》/BCC)
 [ある女の子が飛行機に乗ってきた。私のそばに座って、ちらっと私を見て、うれしそうな顔をした。]

上の例は、いずれも“了”を伴って現れている。例えば、例(30)で用いられている“买”は活動動詞⁶であり、動詞自身は必然的な終結点を持たないため、非有界の動作を表すのに対し、“了”と同時に現れる場合、動作が終結点を持つようになり、有界の動作へと変化することが可能である。例(31)も同様に、“了”と数量補語(“一下”)が同時に用いられることにより、動作の終結点が与えられている。

また、以下の例(33)と例(34)のように、方向補語からなる動補構造が不定NP主語文の述語として用いられるケースも観察される。

(33)一个个子小小，其貌不扬的男生满面笑容地站起来。 (例(18)再掲)

(34)一个仆人诧异地奔下台阶，打开车门。 (例(16)再掲)

例(33)の“站”は上への動きを表す“起来”を伴い、動作主が「座っている」状態から「立っている状態」への過程的な動作、即ち「状態の変化」を表すという点から、例(33)は有界の事態になる。例(34)では一つの主語(“一个仆人”)に対して、二つの動詞(“奔”、“打”)を連ねており、前後して起こる動作を表すため、連動文であるが、ここでは、前の動作が後ろの動作の手段や方法を表すのではなく、前の動作が終わってから、後ろの動作が続いて起こるというような前の動作の実現・完了が含意される例である。また、ここでの“开”は動作が引き起こした結果を示す結果補語として働き、対象に何らかの状態変化が起こったことが動作行為の結果(「ドアが開いた」)として含意されることから、例(34)も有界の事態であると考えられる。

一方、王灿龙(2003)が指摘するように、不定NP主語文の述語は動作が状態化される形式で現れる例が観察される。

(35)一个肤色黝黑的老人，弯腰弓背，正全神贯注地捏着手中的小人。 (例(13)再掲)

(36)一个妇人安详地走着，两手各抱着一个幼小的纯洁的孩子。 (例(15)再掲)

上記で述べたように、属性を叙述する場合、時間的な限定から解放されるため、文自体は自然な終結点を持たないことになる。一方、上記の例(35)と例(36)では動作の継続や状態を表すものの、その動作や状態はある時点での終結するという時間に限定されるものであると考えられる。例えば、

(37)a.捏小人捏了 n 个小时，捏完了。

b.抱着孩子走了 n 个小时，到达目的地后动作结束。

このように時間の流れの中で、動作が展開して未来のある時点で終結するという任意の「終結点」⁷を持っていくことから、例(35)と例(36)も有界の事態と解釈できる。

以上、不定NP主語文の述語はある動作の始まり、展開、終わりという具体的な時間の中で出現・存在する事態、即ち時間的な限定性を持つ叙述に限られることから、不定NP主語文には「有界性」を有するという性質が反映される。

6. 語用的機能—“有”を伴う兼語文との比較を兼ねて

中国語では主語に不定NPを避ける傾向があるため、不定NPが主語にならないように、動詞“有”を用い不定NPを目的語にする兼語文の形で表されるケースが散見される。例えば、以下の例(38)では、不定NPの前に“有”をつけても、文の自然さや意味はあまり変化しない。

(38) 一个女孩子上机了，她走到我的身边坐下，看了我一眼，有点高兴。 (例(32)再掲)

(38)' 有一个女孩子上机了，她走到我的身边坐下，看了我一眼，有点高兴。

ここで問題となるのは“有”を伴う兼語文と不定NP主語文は、それぞれいかなる場合に使用されるのかということである。魏紅、儲澤祥(2007:46)は、“总体上看，现实性无定NP主语句既可以描写，也可以陈述，但偏重描述事件，而‘有’字句偏重确认人或事物的存在性。描写性较强的无定NP主语句不宜加‘有’。[全体的に見れば、現実性を帯びる不定NP主語文は〈描写〉と〈叙述〉という二つの機能を同時に担うと考えられるものの、事態を描写することに重点を置いているのに対し、‘有’構文には人やモノの存在を確認するという意図が含意される。よって、特に描写性が強い不定NP主語文には“有”をつけるのは不適当である。]”と述べている。

魏紅、儲澤祥(2007)が主張する「“有”を用いる文には人やモノの存在を示す機能が残されている」という事実は、次の例(39)でも確認できる。

(39)(a) 有家小服装店挂满了各式标价的皮夹克。 (b) 一位男士走进店来，这件摸摸，那件捏捏，最后看中了一件，但仍把握不准，于是对店主说：“这不是真货。” 店主微微一笑，不动声色，从里屋拿出一件给他看。 (《为人处世36计》和事等/BCC)

[ある小さな衣料品店に異なった値札の付いた皮のジャケットがたくさん掛かっている。ある男がその衣料品店に入って、これを触ったり、あれを触ったりして、やっと気に入ったジャケットを見つけた。だが、これが本物か偽物かを判断できず、店主に「これは偽物だ」と言った。店主は微笑みながら、何も言わずに奥の部屋からもう一枚を持ってきて彼に見せた。]

例(39)において、(a)部の“小服装店”の前に“有”を伴うことにより、“小服装店”が存在していることが示される。また、ここで“有”構文で示された“小服装店”は後続する動作が起こった場所として存在していることが文脈から読み取れる。一方で、(b)部の“男士”は不定の形で文頭に現れ、男の子が入った後、“摸摸”、“捏捏”といった具体的な動作が表されることから、文全体は眼前で起こった事態を描写する表現となっていると考えられる。つまり、例(39)では魏紅、儲澤祥(2007)で指摘されたように、不定NP主語文は事態を描写することに重点が置かれている。しかし、以下の例(40)に挙げるよう、描写性が読み取れる文においても“有”を伴って現れるケースが観察される。

(40) 街头有一家客栈，门口挂了只旧纱灯。有个年轻人(a)正在往灯里面添加香油，见沙成山骑马而来，
 (b)侧头笑问：“客官住店吧？”(柳残阳《断刀》/BCC)

[街角には入り口のところに古びた織り糸のランプの掛かる旅館がある。若者がランプに油を入れて
 いるところに、馬に乗りながらこっちに向かってくる沙成を見て、「お客様、お泊まりですか」と頭
 を傾けて笑いながら話しかけた。]

例(40)の不定NP主語文に用いられる述語は持続的な動作(例(40)の(a)部)と動作に伴う様態(例(40)の(b)部)が具体的に表されることから、例(40)は目の前にある状況を描写した表現となっていると言える。つまり、描写性のある文においても“有”を用いることができるうことになる。一方、(b)部の“有个年轻人”を“一个年轻人”に置き換えるても、文の自然さはあまり変化しない。上記の説明から、“有”構文と不定NP主語文はいずれも描写的成分を伴って現れるケースが観察される。ここで問題となるのは、いかなる場合に不定NP主語文は“有”構文へと転換できないのかということである。以下の例を見よう。

(41) 一位男士走进店来，这件摸摸，那件捏捏，最后看中了一件，但仍把握不准，于是对店主说：“这不
 是真货。”店主微微一笑，不动声色，从里屋拿出一件给他看。(例(39)再掲)
 (42) 有个年轻人正在往灯里面添加香油，见沙成山骑马而来，侧头笑问：“客官住店吧？”(例(40)再掲)

上記の例(41)と例(42)から示すように、不定NPと“有”を伴って導入したNPは後続する文の主語にもなっていることから、両方とも新たな叙述対象を表すことになる。本稿の考察により、不定NP主語文における主語は新たな叙述対象を導入する他に、背景的な成分として用いられるケースが観察される。例えば、次の例(43)と例(44)では、不定NPが表す対象について叙述する内容は、後続する文脈からは見つからない。

(43) 家霆随着人潮走动，希冀在摩肩接踵中抖落心中的寂寥。人与人，挨得太近，就常常互挤互撞。(*有
一个路人的伞柄无心打在家霆头上，使他好疼。但他深爱的欧阳给他的伤害，使这点疼痛他也顾不上介意了。(王火《战争和人》/BCC)

[家霆は人波に押されながら歩いて、押し合いの中で心に潜むその寂しさを振るい落とそうとしていた。人は、他の人と近づきすぎるとお互にぶつかるものだ。家霆はある通行人にわざとではないが傘の柄で頭を叩かれ、痛かった。だが、愛する欧阳に傷つけられた苦しみを思えば、こんな痛みは気にならなかった。]

例(43)の文脈から、不定NPを伴う当該部は“路人的伞柄”が存在するということを示すのではなく、現実の時間の流れの中で動作の発生、または動作の結果(痛かった)という動的な事態を表すことに重点が置かれていることが観察されるため、“有”構文との互換性が低い。以下の例(44)も同様である。

(44)他一面走道，一面还在琢磨。(中略)突然之间，他倒在了地上。(*有)一个发了疯的人在街上狂跑，把他撞倒了。他站起来，掸了掸衣服。
(老舍《鼓书艺人》/BCC)

[彼は歩きながら、考えていた。(中略)突然、彼は地面に倒れた。ある気が狂った人が街を猛ダッシュで走り、彼を突き倒した。彼は立ち上がって、服のほこりを軽く払った。]

例(44)に用いられている不定NP主語文も「彼は誰かとぶつかって倒れた」という事態を表すものであり、ここでは「“一个发了疯的人”がどこに存在するか」ということを表すのではなく、「有」と共起しにくいと考えられる。また、例(43)では叙述の主眼が“家霆”に置かれ、“家霆”的悲しい気持ちが表現されている。ここでの不定NPを伴う文は欧阳に傷つけられた“家霆”的苦しみの深さを際立たせるために用いられていることが後続の文脈から分かる。例(44)も同様に、不定NPを伴う文に続く文では叙述の対象が“他”に転換されており、つまり不定NPが後述する文脈と関連付けられることから、不定NPは叙述対象として意図的に導入されたものではないと考えられる。つまり、不定NPを伴う文が後ろの叙述内容を導入するにあたって必要となる背景的な情報を提供する機能を果たしていると言えよう。

7. おわりに

従来の先行研究でも指摘されているように、不定NPが主語となる文は少なからず存在する。本稿ではこのような不定NP主語文の特徴は叙述のタイプが反映されており、即ち事象叙述に限定されることから、不定NP主語文には「有界性」が必要とされることを指摘した。また、不定NP主語文の構文的な特徴として、不定NPに対する修飾成分や述語に対する描写的な内容を伴うことから、文の表す事態は話し手が眼前の状況として捉えるものであることを明らかにした。これらの描写的な内容は不定NPが表す対象を具体化すると同時に、文が表す情報を追加することに貢献すると考えられる。また、不定NP主語文は新たな叙述対象を導入する機能を持っている一方で、背景的な情報として用いられるケースも観察される。このようなケースでは、不定NP主語文は動作の発生、結果という動的な事象を表すため、存在を示す機能を有する“有”構文に変換できないことを指摘した。

注

¹ 陸烁・潘海华(2009)は述語のタイプを“阶段性谓语”(stage-level predicate)と“个体性谓语”(individual-level predicate)に分け、前者は動的な事態(“吃了饭了”、“正在吃饭”)を表すものであるのに対し、後者は静的な状態(“会说汉语”)を表すものであると指摘している。

² Gの「量詞+名詞」という形も不定の成分として認められるものの、通常目的語の位置を占めるという形を取っており、文頭に現れ文の主語となることができないため、本稿の考察の対象から外している。

³ 仁田(2016:166)によれば、事態とは文の表す意味内容のうち、対象的な事柄的内容として存在であり、話し手の描き取り方・捉え方を通して切り出されたものである。言い換えれば、事態として描き取られているのは、様々な出来事・事柄が呈する現れ、モノのあり方・特徴などである。

⁴ 仁田(1991)では現象描写文はある存在する現象をそのまま主觀の加工を加えないで、言語表現化して述べ伝えたものであると定義されている。森羅万象の中から現象を一つだけ取り出して写し取ったものであるため、通常、対立する現象・事象を想定することが難しいと言われる。

⁵ 沈家煊(2005)は“非事件句”を実際の終結点を持たないものと定義しており、“非事件句”には以下のようないわゆる文が挙げられる。

a. 食堂老飞进来苍蝇。 [食堂に蠅がよく飛び込んでくる] (惯常句)

b. 给我吃的! [食べ物をちょうだい] (祈使句)

(例(a)と例(b)は沈家煊2005:374より引用)

上記の例(a)は頻度副詞を用いることにより、一つの具体的な動作の発生を表すのではなく、同じ動作を複数回繰り返し生起することを表すため、文の表す事態は実際の終結点を持っていないことになる。これは“非事件句”に属すると言える。また、例(b)はまだ未発生の事態を表すと同時に、未来の時点にその事態が生起しない可能性がある(相手に断れる場合)ことから、例(b)も“非事件句”となる。

⁶ Vendler(1967)によれば、活動動詞は内在的終了点を持たず、動きや状態が持続的に継続していくことを表すものである。「限界点」を持っているか否かについて、活動動詞は持続的な動きを表すものの、その動作を意識的に止めることができるため、「限界的」なものであるとされる。

⁷ 沈家煊(2005)では、以下の例において“架炮”は非有界の動作であるものの、“架着炮”になると、静的な存在(“山上有炮”)と動的な動作(“正在架炮”)という二つの意味に解釈できると指摘されている。ここでいう“正在架炮”という動的な事象は“架炮”という動作とは異なり、任意の終結点を持っている。

a. 架炮n天，架完了。

b. *架着炮n天，架完了。

(例(a)(b)は沈家煊2005:375より引用)

参考文献

- H.P.Grice, P. (1975). *Logic and conversation*, In P. Cole & J. Morgan (eds),*Syntax and Semantics*, Vol.3, Academic Press, New York. 41-58
- Vendler, Zeno (1967). *Linguistics in philosophy*, Cornell University Press, N.Y
- 益岡隆志1987.『命題の文法』,くろしお出版
- 益岡隆志2004.「日本語の主題-叙述の類型の観点から」,『主題の対照』,くろしお出版
- 仁田義雄1991.「現象描写文をめぐって」,『日本語のモダリティと人称』,ひつじ書房
- 仁田義雄2016.『文と事態類型を中心に』,くろしお出版
- 曹秀玲 2005.〈一(量)名”主语句的语义和语用分析〉,《汉语学报》(2), 81-87
- 陈平1987.〈释汉语中与名词性成分相关的四组概念〉,《中国语文》(2),109-121
- 范继淹1985.〈无定NP主语句〉,《中国语文》(5),321-328
- 陆炼·潘海华 2009.〈汉语无定主语的语义允准分析〉,《中国语文》(6),528-537
- 沈家煊 2005.〈“有界”与“无界”〉,《二十世纪现代汉语语法论文精选》,北京:商务印书馆,81-97
- 唐翠菊 2005.〈从及物性角度看汉语无定主语句〉,《语言教学与研究》(3),9-16
- 王灿龙 2003.〈制约无定主语句使用的若干因素〉,《语法研究和探索》(十二),北京:商务印书馆,224-239
- 魏红·储泽祥 2007.〈“有定居后”与现实性的无定NP主语句〉,《世界汉语教学》(3), 38-51
- 赵元任1968.《汉语口语语法》,北京:商务印书馆
- 朱德熙1982.《语法讲义》,北京:商务印书馆

例文出典

BCC:北京语言大学 BCC 现代汉语语料库 <http://bcc.blcu.edu.cn>